

**若い世代に戦争の体験や記憶を
いかに継承したらよいか**

2024年8月19日 NIEセミナー
毎日新聞社会部東京グループ 黒川晋史

【自己紹介】

2009年4月入社。東京社会部では警視庁、都庁などの担当を経験。これまでの取材テーマは刑事事件、災害、新型コロナウイルス対策、障害者等の権利擁護、など。千葉支局、和歌山支局にも在籍した

→ 2023年度上半期は「夏の平和企画」担当に

【平和報道の課題】

▽報道各社は毎年8月、平和報道を実施

- ・近年は「8月ジャーナリズム」と揶揄
 - ・ウェブにより記事ごとの閲覧数が可視化され、戦争に関する報道は「読まれない」傾向が明らかに
- 記憶の継承には「読まれないと意味がない」。
どうすればいい？

<取材の経過>

【高校生アンケートの発案】

▽書き手の「読んでもらいたい」を重視するのではなく、記事の受け手、特に記憶を継承してもらう必要がある。若い人たちの「読みたい」に応えてみてはどうか？

→何が読みたい？と問いかけることから始めよう

→高校生に読みたい記事を選んでもらうアンケートの実施へ！

【アンケートの作成～回収】

①方向性の決定

「戦争の悲惨さと平和の尊さを伝える」

「誰もが知るような事柄の〈秘話〉を発掘」

②中学教科書に典拠し、重要語を抽出

(ex.特攻、空襲、情報統制、学徒出陣など)

③各記者が資料をあたり「ネタ」をピックアップ

※10代の教育現場にふさわしくない？話題は選ばず
(政治的中立性を意識。従軍慰安婦問題、南京事件
など議論が渦巻くナイーブな話題は除外)

【アンケートの作成～回収】

- ④ NIE東京事務局と相談し、NIE実践指定校など6校に協力を依頼

→アンケートを配布、回収

- ⑤ アンケートを集計、票が多いトピックの取材へ

(原則1人一つを選択)

<例>

| | | |
|-------------|---|-----|
| 1 戦 後 | 甲子園の沖縄代表の応援歌として有名な「ハイサイおじさん」。作曲の背景には、県民の4分の1が死んだ沖縄戦の悲劇がある | 558 |
| | 戦争から戻っても長年、心の病気に苦しんだ元兵士たちがいた | 513 |
| | 戦争で親を失った「戦争孤児」が12万人以上いて、行き場がない子は駅などで寝泊まりし、物乞いや窃盗をして生き延びた | 419 |
| | 日本で韓流に触れられる「コリアンタウン」の原形は、戦後の物不足のためにできた闇市だった | 316 |
| | 関心があるものはない | 509 |

【取材活動】

▽ニュースである以上、過去の報道のリマインドに終わってはいけない。できれば新事実、新証言を得たい

→しかし戦後79年の壁。関係者宅をたどっても亡くなっているケースが相次ぐ
(記事に出ている以上の取材量)

...といった困難に遭いつつも記事化

<※ここからは記者の感想など>

【高校生の反応】

▽アンケートについて

- ・ 約 8 割が何らかの選択肢を選んでいた。
「関心があるものはない」は約 2 割
→ 多くの高校生が自分の意志で考え、回答してくれた、と取材班は前向きに捉えた
- ・ 「毒ガスを秘密で製造するため、地図から消された島があった」がトップの票を獲得
→ 刺激的な言葉が関心を呼ぶ傾向あり

【高校生の反応】

▽アンケートについて

- ・「日米幻の首脳会談が実現寸前だった。実現していれば太平洋戦争は起こらなかったかも」も比較的多くの票を集めた
- 学校では学べない「もしも」という話に興味を引かれる生徒も多かった様子

▽感想文について

- ・青山高校に生徒の感想文を依頼（※資料参照）

【その他】

▽反省点（事務）

- ・ アンケートの配布・回収は夏休み前に駆け込みでお願いすることに
- ・ 感想文をお願いする際も、当初は定期試験や文化祭のスケジュールを意識できず...

→ 学校生活のサイクルを意識し、もっと前倒しでお願いすればよかった

【まとめ】

- ▽結果的に記事の閲覧数が伸び、手応えのある連載となった
→高校生の関心を呼ぶ記事は、大人の興味も引く
- ▽従来型の一方通行の報道ではなく、読者と双方向のコミュニケーションを取ることが今の時代は大事。その点でも有意義な企画となった

【まとめ】

▽しかし...

- 報道は関係者の直接証言がないと、スタイルとして記事を作りにくい。証言者がいなくなる中でどのような報道ができるか、業界として答えは出ていない
- 今後は戦争報道が減少していくことが懸念される
- 教育現場で戦争の記憶を伝えることも一層重要になるのでは？

ご清聴ありがとうございました